

連載 106 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (66歳・内科)

高齢者医療「サインはV」 手信号で“愛のメッセージ”を送る 施設入居者さん男女。 その仕草に戸惑う若き看護師さん。

松山市郊外北の高齢者施設で、いつものように訪問診療を開始しようとしたところ、30代



前半の若きリーダー(男性看護師)から、患者さんのことで相談をしたいとの申し出がありました。

F.Dさん(76歳、男性、脳梗塞、狭心症)へ、I.Fさん(69歳、女性、若年性認知症、糖尿病)が、後ろ向きに股の下から“愛のメッセージ”を送ったのだそうです。おそらく、どちらかの居室で会う時間の確認ではないだろうかということです。それを目撃した若き看護師は戸惑ってしまい、介護・看護の立場としてどうしたらよいのかといった相談でした。

私は、医療の立場から
①「高齢者の性」の問題は、健康長寿の視点で

論じることです。

- ②このような行為は、ケースバイケースの対応となります。セクハラ的ではなく両者同意の場合は、前向きに担当者会議をするべきです。
 - ③結果として、前向きな判断が困難であれば、両者の会える機会を減らすよう、同じ3階の居室ではなく違う階の居室にするなどの知恵を出し合うことです。
- といった提案をしました。その後、I.Fさんを2階へ移したのですが、その行為はやまず、仕方なく1階に移したのだそうです。

改めて、人間の業の深さを思い知ることになったのでした。

今まさに、少子高齢化社会まっただ中。まるでトレンディドラマのように、高齢者同士の出会いは、デイサービスセンターや施設での生活空間の中で起こります。お互いを磁石のように引きつけ合う時代なのでしょう。

人間の本能のうち、食欲や名誉欲とは異なり、性欲は種の保存のためなのか、死ぬまで残るとされています。だからこそ、その行為に対して、慎重に…さらに慎重に、周囲で理解しなくてははいけません。

失笑したり、無条件の行動禁止をするべきではなく、あたたかく見守ることを肝に命じておくべきでしょう。

外来診療(かかりつけ医) 要予約 総合内科・漢方診療科

お医者さんが 24時間・365日体制で対応
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(常勤8名、非常勤14名)
内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
<http://www.touzaikai.jp/>